



## 実技講座「カラムシから布をつくろう」

実技講座「カラムシから布をつくろう」では、縄文時代の布づくりを体験していただきました。講座では、カラムシという植物を刈り取って繊維を取り出し、糸を撚り、越後地方に伝わる民俗事例を参考に布づくりを行いました。毎年実施している講座ですが、今年度は大人向けのものとしてリニューアルし、「越後アンギン」とも呼ばれる布編みの技術を生かした編み方でコースターを2枚仕上げました。

アンギンとは近年まで見られていた炭俵や筵（むしろ）等と同じ編み方のもので、越後地方ではソデナシやマエカケなどの衣類や袋物にもその技術が認められます。縄文時代にも各地で同様の編み目のある布片や土器の底部に残された痕跡が観察できることから、当時から連綿と続く技術であったことがうかがわれます。アンギンの編み方は、布幅分のたて糸を用意し、よこ糸に対して1対のたて糸をからみ合わせるもので、それを繰り返すことで布状のものに仕上げることができます。越後アンギンの編み方も原理は同じですが、3本のよこ糸を使用し、たて糸を一目ずつ飛ばして編むことで独特の編み目になります。

毎回、講座の参加者は女性の方が多いのですが、おそらく布づくりの担い手が長らく女性だったことと関係があるのでしょうか？ 布づくりのどの工程も根気のいる作業ばかりで、参加者の方々を通して寸暇を惜しんで働く母娘の姿が目につかぶようです。参加者の皆さん、大変お疲れさまでした。素敵なコースターが仕上がりましたので、お仕事の合間にティータイムを楽しんでください。



## まほろん森の塾

### 第9期まほろん森の塾

まほろんでは、小学校高学年から中学校にかけての子供たちに古代の生活を体験してもらう「まほろん森の塾」という企画を行なっています。今年度は、「食」をテーマに、県中・県南地方の小学校5年生から中学校2年生までの13人が9期生として活動中です。

当たり前のことですが、古代の社会にはコンビニもレストランありません。食事をするには、自分たちで食料を確保し、調理しなければなりません。

そこで森の塾では、まず食料を確保するため、野外展示「奈良時代の家」の周辺に、古代の畑と田んぼを作りました。自分達の手で作物を植え、水をやり、除草作業も行なっています。初めは小さかった苗たちも順調に成長し、いよいよ収穫の秋を迎えようとしています。

また、栽培の一方で、森の塾では、石包丁や食器（茶碗・箸）など収穫や食事に必要な道具の製作も行ないました。これらは、10月24日（土）に予定している収穫祭で使用するつもりです。当日は、自分たちで育てた作物を収穫し、縄文土器などを使って調理し、自

作の食器を使って食べます。はたして、どのような味がするのか、今から楽しみです。

#### <今年の森の塾の活動>

- 第1回 結団式と古代畑の作付け (5/23)
- 第2回 土と木の食器を作ろう (6/20-21)
- 第3回 ちまきづくり (7/12)
- 第4回 石包丁づくりと古代米刈り (9/20)
- 第5回 古代畑の収穫・収穫祭 (10/24)
- 第6回 お正月の準備 (12/19)
- 第7回 冬の遊びと解団式 (1/30)



<古代の畑の作付け>

かき氷づくり体験は、小さいお子様から大人の方まで多くの方々に好評を得たようで、子どもたちは興味津々と目を輝かせ、必死にハンドルを回し、大人の方々は懐かしさに目を細められていらっしゃいました。



<古代の染色体験>

## 夏まつりのようす

7月26日（日）、開館8周年記念イベント「まほろん夏まつり」が開催されました。

まつりでは、古代3種競技、古代の染色に挑戦やレトロ感たっぷりのかき氷づくり体験など、多彩なメニューで400名を超える多数のお客様に来館していただきました。

なかでも「第1回まほろんカップ」と銘打った古代3種競技会では、午前中に練習時間を設け、午後より競技を開始しました。競技では白熱した熱戦が繰り広げられ、同点決勝の末に決着が付きました。高得点を出した上位3名の方には表彰状と記念品が贈られ、その他2名の方に特別賞が贈られました。

また、古代の染色では、染め上げられた布が陽にかざされ美しい色に発色していました。



<まほろんカップ表彰式>



<かき氷づくり体験>



## 企画展案内

指定文化財展「ふくしまの重要文化財Ⅶ（法正尻遺跡の国指定重要文化財）」

会期：10月24日（土）～翌年1月31日（日）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

県内の重要文化財を紹介する「ふくしまの重要文化財」シリーズの第7弾。今回は、法正尻遺跡（磐梯町・猪苗代町）から出土した国指定重要文化財を紹介しします。法正尻遺跡は磐梯山の南側に広がる翁島丘陵に立地する縄文時代の集落遺跡です。磐越自動車道建設に伴う発掘調査が昭和63年と平成元年の2ヶ年にわたって行われ、堅穴住居跡129軒、土坑759基、埋甕26基などが見つかり、26万点におよぶ遺物が出土しました。現在、調査地点は磐越自動車道の磐梯山サービスエリアとなっています。

この法正尻遺跡から出土した資料は極めて残りが良好で、土器の全形を容易に復元することができる第一

## イベント「鉄づくり」

11月7・8日（土・日）の製鉄炉操業に向けて、炉づくりなどの準備作業が盛んに行われています。

過去に行ったまほろん1～3号炉は、南相馬市大船迫A遺跡15号製鉄炉をモデルとしましたが、今回のまほろん4号炉は大船迫A遺跡の隣の長瀨遺跡から見つかった15号製鉄炉をモデルにします。

長瀨遺跡15号製鉄炉は、平場に踏みふいごと炉をT字型に配置して操業を行っていました。炉の一番下の部分から炉内に風を送る羽口が片側に8本並んで見つかると、炉の中央部からは投入した砂鉄の不純物が溶けて固まった大きな塊が見つかったことと、炉の底の痕跡から、炉の長さが約1.2m、羽口は10本並んでいたと推測されています。そこで、まほろん4号炉は内法1.2m、外寸1.5m×60cmと前回のまほろん3号炉より小型の炉にすることにしました。

## まほろんボランティア

平成21年度から新しい「まほろんボランティア」が始まり、6ヶ月が経過しました。新旧44名のボランティアが、一日に最低2時間以上、各人の都合に合わせて月2回以上活動しています。

9月の活動の一端を紹介しますと、縄文や奈良・平安時代の復元住居の火番、来館者の安全確保のための環境整備、展示案内や解説、館内案内、講座・講演会・イベントの補助などを行っております。10月6日（火）から、「まほろんボランティア」はイエローのブルゾンを着用し活動しています。このブルゾンは、CO2排出権付きカーボンオフセットユニホームで、環境に優しい服装です。

級の資料です。また、縄文時代中期の東北地方南部の遺物の実態を知るうえで欠かすことのできない一括品であることから、平成21年7月10日に国の重要文化財に指定されました。

今回の展示では、装飾性豊かな縄文土器を中心に、当時の関東地方や新潟県などとの交流を伺わせる土器や垂飾品、石鏃などの狩猟の道具や土偶などの土製品を展示する予定です。「宝の山」と謡われた磐梯山の近くに住んだ人々が残した「お宝」を是非ご覧下さい。



＜法正尻遺跡の縄文土器＞

1日目は朝9時30分から午後7時頃まで操業を行い、2日目は朝10時頃から炉を解体して炉の中のできた鉄を取り出す予定です。

ただ今、1日目の操業の際に炉内に風を送る踏みふいごを踏んでくださる方（番子さん）を募集しています。



＜モデルにした長瀨遺跡15号製鉄炉＞

まほろんにおいてになりましたら、気軽にボランティアに声をかけてください。何か、新しい発見があるかもしれません。



＜奈良時代復元住居での火番＞

## 文化財研修のご案内

### 1～3月の研修

1～3月の文化財研修は、基礎研修2コース、専門研修2コースを実施します。本年度最後の募集期間となりますので、みなさま、ふるってお申し込みください。なお、詳細はホームページや館内備え付けのチラシ等をご覧ください。

1月23日(土)は、調査技術基礎研修「分布調査の方法」を実施します。県内の文化財担当者等の方を対象に、埋蔵文化財調査の基本となる分布調査について、事務手続き・現地調査の留意点・整理方法等を研修します。

2月13日(土)は、基礎研修「考古学と地方史研究」を実施します。考古学からみた県内各地の歴史を学ぶ

研修で、甲子トンネルの開通を記念して、大内宿・下野街道の発掘調査成果を中心に会津地方の遺跡をテーマとします。

2月25日(水)は、専門文化財研修「史跡整備専門研修」を実施します。県内の文化財担当者等の方を対象に、史跡整備のための調査方法、企画・事務手続き等の他、地域の取り組み等について研修します。今回は、本年度開館した郡山市の大安場古墳史跡公園を会場に、同施設職員から史跡公園建設の体験談を講義していただく予定です。

3月7日(日)は、基礎講座「文献資料と地方史研究」を行います。文献資料からみた県内各地の歴史について学び、考古資料との補完関係を通して歴史理解を深める研修です。今回は、白河地方に焦点を当てた内容です。

## シリーズ収蔵品紹介9

### 荒小路遺跡出土の土偶

楕円形の大きな顔。鼻と眉毛のあたりが高くせり出して、彫りの深い顔になっています。飛び出した目や口がひょうきんですね。頭の上と後ろには、髪飾りか束ねた髪が表現されています。

細い胴のわりにしっかりした腰と脚で、まっすぐ立つことができます。両腕が欠けている以外は、ほぼ完全な形が残っています。ボディラインは丸い小さな突起で縁取られ、表面は集合沈線や渦文で埋め尽くされています。この文様には綱取II式(縄文時代後期前葉、約4,000年前)の特徴が見られます。顔の形こそ楕円形ですが、「ハート形土偶」のバリエーションとされています。

この土偶は荒小路遺跡(郡山市田村町)で見つかりました。荒小路遺跡は縄文時代後期を中心とした集落の跡で、竪穴住居跡や狩猟用の落とし穴の跡、埋甕(土器を埋めた墓)などが発見されました。

土偶以外にも、数多くの縄文土器や石器が見つっています。今回ご紹介した土偶の姉妹たちもたくさんいて、中には入れ墨をした土偶やまん丸顔の土偶、目を閉じたような土偶もありました。ヒトだけでなくイノシシ形やイヌ形の土製品も見つっています。縄文

人が何を考えて作ったのか? 興味は尽きません。

この土偶は現在、イギリスに「出張」しております。大英博物館では11月22日(日)まで、日英修好通商条約締結150年記念事業の一環として「土偶展」が開催されています。「土偶展」では、日本を代表する土偶が60点ほど展示されています。この土偶も、日本代表チームの一員として、イギリスに赴きました。

大英博物館での展示終了後は、東京国立博物館における「帰国展」(仮)で展示される予定です。

長い「出張」を終えて、まほろんに凱旋するのは来年の4月頃になりますので、その時じっくりとご覧いただければと思います。



< 荒小路遺跡の土偶 >

## まほろんからのお知らせ

### 獣脚ろうそくが出来ます

10月27日(火)から11月6日(金)は、体験活動室で「獣脚ろうそくづくり」が体験できます。材料費は200円。色はお好みで自由自在。

他では体験できないメニューですよ～。



### ご利用案内

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館)、国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)、年末年始(12月28日～1月4日)

入館料 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。)

その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。